

ヨルダン：初めての大規模太陽光発電所の建設が開始¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

本年6月、ヨルダン南部のマアーン開発地区²において Shams Maan 太陽光発電所 (52.5MW) の建設が開始された。今までヨルダンに導入された太陽光発電施設は全て、事業所、学校、個人住宅などに設置された小規模なものであり (総容量は約 23MW)、本太陽光発電所がヨルダンで初めて、且つ、最大規模のユーティリティースケールの太陽光発電所となる。

ヨルダンはエネルギーの大部分を輸入に頼っており、常にエネルギー価格の変動と供給遮断リスクにさらされている。ヨルダンは再生可能エネルギーの導入をこの問題解決の有効な方策と位置づけ、2010年には2020年までに600MWの太陽光、1000MWの風力発電を導入することを目標とする再生可能エネルギー法を制定した。また、2012年に中東地域で初めて固定価格買取制度を導入した。

この固定価格買取制度の基で、2012年に第一次再エネ発電プロジェクトの入札が実施された。その結果、太陽光発電については約30件のプロジェクトが基本合意書締結に至り、最終的に12件のプロジェクト (総容量200MW) が契約された。本プロジェクトはこれらの12件の太陽光発電プロジェクトの一つであり、その中で最初に建設へ移行するプロジェクトである。

本プロジェクトは元々2009年に、ヨルダンの再エネ発電事業者 Kawar Energy 社がイタリアの太陽光発電事業者 (Solar Ventures 社) と共に始めた事業である³。その後、世界的な薄膜太陽電池メーカー/太陽光発電事業者である米 First Solar 社が事業参加し、ヨルダン国営電力会社 (National Electric Power Company) との間で20年間の長期売電契約を締結するなど強力に事業を推進してきた⁴。

しかしながら、First Solar 社は2014年8月、本プロジェクトの全持ち株を売却し、三菱商事 (35%) とカタールの発電・造水会社 (35%) が本プロジェクトの新株主となっている⁵。尚、First Solar 社は設計・調達・建設を行う EPC コントラクターとして関わっている。

¹ 本稿は平成27年度経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業 (海外における再生可能エネルギー政策等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュース等を基にして作成した解説記事です。

² <http://www.mda.jo/Aboutus.html> 参照

³ <http://www.kawar.com/content/shams-maan-press-release-milan-italy-october-22-2009> 参照

⁴ <http://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/pr/archive/2014/html/0000025075.html> 参照

⁵ 本年1月、みずほ銀行は国際協力銀行、スタンダードチャータード銀行と共にプロジェクトファイナンスによる総額129百万ドルの融資契約を締結した。尚、プロジェクトの総投資額は170百万ドル。

再エネ発電の本格的な導入は発電事業がリスクをとって事業を推進することによって初めて実現できる。紆余曲折を経てきた本プロジェクトの完成が確実にされたことは、ヨルダンで再エネ発電事業に取り組んでいる他の事業者へ自信を与え、ヨルダンの再エネ導入進展の刺激剤になると思われる。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp